

未完の英和辞書『エゲレス語辞書和解』の編纂法の考察

三好 彰

キーワード: 『エゲレス語辞書和解』 『英和对訳袖珍辞書』
『諳厄利亚語林大成』 オランダ通詞

要旨

嘉永 3 年(西暦 1850)に編纂に着手したが中断してしまったのが英和辞書『エゲレス語辞書和解』である。中断の理由は一流の英語遣いだった編纂者が次々に起こる外国との交渉事への対応に追われて英和辞書の編纂に手が回らなくなったためと従来簡単に片づけられてきた。

ところが見出し語の構成に統一性が見られないし、邦訳語の質がほぼ 10 年後に刊行された『英和对訳袖珍辞書』と比べて見劣りする。とりわけ言語関係の語の邦訳からは言語学の理解の低さが目立つ。開国前の嘉永年間では英和辞書を作るだけの英語力が身につけて居らず、それが『エゲレス語辞書和解』中断の理由と考える。

1. はじめに

江戸時代に編纂された英和辞書といえば、文化 11 年(西暦 1814)に編纂されて幕府に献納されたが刊行されなかった『諳厄利亚語林大成』(本木 1814)と、文久 2 年(西暦 1862)に市販された『英和对訳袖珍辞書』(堀 1862)がよく知られているが、そのほかに幕命を受けて嘉永 3 年(西暦 1850)に編纂に着手したが見出し語の A の部の 4 冊と B の部の 3 冊までを脱稿したところで未刊に終わった『エゲレス語辞書和解』(西吉兵衛等 1851-1854)がある。

これまで『エゲレス語辞書和解』について書誌学的な研究が行われ(荒木(1931)、竹村(1933)、岩崎(1935)、豊田(1939)、重久(1941)、古賀(1947)、石原(1984))、編纂に関わった人々が当時一流のオランダ通詞だったことが明らかになった。そしてそれらのオランダ通詞が次々に来日する外国人の対応に追われるようになったために完成に到らなかったとされてきた。本稿は『エゲレス語辞書和解』が未完に終わった理由を言語学的に考察する。

現在『エゲレス語辞書和解』は長崎歴史文化博物館に 7 冊から成る原稿が現存する。そのほかに九州大学に、同時代に写本されたが一部が欠けている 5 冊構成のもの、後年に写本されたとされる 7 冊構成のもの¹がある(石原 1984)。本稿は長崎歴史文化博物館蔵の 7 冊構成の『エゲレス語辞書和解』をもっとも古い時期の原稿と見なし考察の対象にする。

なお『エゲレス語辞書和解』は和綴じであり、その 7 冊の表紙にそれぞれ A 之第一、A 之第二、A 之第三、A 之第四、B 之第一、B 之第二、B 之第三 と書かれているが、本稿では簡便のためこれらの冊子をそれぞれ A1, A2, A3, A4, B1, B2, B3 と略称する。

『エゲレス語辞書和解』は左端に英語の見出し語が書かれ、その上部にカタカナで発音が書

¹ 九州大学の蔵書では標題が『エケレス語辞書和解』である。エゲレスでなく、エケレスである。

かれており、対応する邦訳が右に示されている。見出し語の品詞は示されていないが、動詞は語頭に to が付されている。カタカナに依る発音と邦訳は縦書きであるが、ここでは横書きとし、名詞と動詞の表記例を1つずつ示すと次のようである。

エケッデミ
Academy 学校
ツ エクセルリレート
to Accelerate 急く

本稿では邦訳語の検討に主眼を置くため発音については論じない。それゆえ以降で『エゲレス語辞書和解』の見出し語を例示する際に発音を示さないことを断っておく。

2. 『エゲレス語辞書和解』の見出し語の構成

『エゲレス語辞書和解』の原稿の冊子 A 之第一 (A1) に序文が書かれており、それに「ホルトロップ² 著す所の英²語字典を譯し」と底本が示されている。この底本は2巻構成であり、『エゲレス語辞書和解』の原稿は第1巻が該当し、その欧文名称は次の通りである(石原 1984)。

JOHN HOLTROP'S ENGLISH AND DUTCH DICTIONARY, Revised, enlarged and corrected by A. STEVENSON, THE FIRST VOLUME, Te DORDRECHT bij BLUSSE EN VAN BRAAM, en te AMSTRERDAM bij J. VAN ESVELDT HOLTROP 1823 (Holtrop 1823)

『エゲレス語辞書和解』の見出し語を総ざらいしたところ、それらが Holtrop (1823) から採録されていることが確認できた。しかし Holtrop (1823) に採録されているままでは無く、次のような工夫をしていることが分かった。

- (1) Holtrop (1823) に採録されている見出し語で『エゲレス語辞書和解』に採録されていないものがある。表 2.1 に冊子番号毎に採録されている見出し語の数と、Holtrop (1823) に出ているが『エゲレス語辞書和解』に採録されていない語の数を示す。

表 2.1 『エゲレス語辞書和解』の冊番号毎の採録語数と、非採録語数の関係

	A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3
採録されている見出し語の数(a)	525	659	494	328	445	473	546
Holtrop (1823)から採録しなかった見出し語の数 (b)	785	27	22	13	7	1	20
採録率 (a/(a+b))	40%	96%	96%	96%	98%	100%	96%

冊子 A 之第一(A1) が過半数に満たない 40%の採録率になっており、96%以上採録している他の冊子との違いが際立っている。つまり辞書全体として見ると見出し語の採録の基準が統一されていない。

A1 で削除した見出し語の大半は現在の英語辞書 OED (2009) で Obsolete, Rare と表記された古い時代の英語や OED (2009) に採録されていない語、つまり現在ではほとんど使われなくなった見出し語が多いので採録しなかった判断の妥当性が浮かび上がってくる。たとえば Holtrop (1823) に採録されている Abaisance や Abgregation が『エゲレス辞書和解』の冊子 A1 には採録されていないのだが、これらの語を OED (2009) は Obsolete とし今では使われない語と見なしている。冊子 A1 を担当した編纂者の英語理解が進んでいたこ

² 原文は英ではなく、口篇で旁が英の一字である。

とをうかがわせる。それに対してたとえば冊子 B3 では OED (2009) が *Obsolete* とみなしている *Blowth* や *Bonaroba* などを採録している、つまり A1 以外の稿を担当した編纂者は Holtrop (1823) の見出し語に対する選別の基準が無くほとんどそのまま採録している。このような採録、非採録の選別の判断が邦訳作り作業の難易に関わってくることを承知しておく必要がある。

(2) Holtrop (1823) の見出し語に同義語が *or* を付して併記されているものがある。それを『エゲレス語辞書和解』で、そのまま採録されている場合のほか、別の見出し語にしていることがあり、また併記されている一つを採録していないことがある。それぞれの例を示す、『エゲレス語辞書和解』の邦訳も付す。

- ・ Holtrop (1823) の見出し語 *Anes or Awns (s. pl.)*³
『エゲレス語辞書和解』で併記のまま *Anes or Awns* 穀物の芽
- ・ Holtrop (1823) の見出し語 *Analytic or Analytical (adj.)*
『エゲレス語辞書和解』で分割表記 *Analytic* 合離したる
Analytical 全
- ・ Holtrop (1823) の見出し語 *Affluence or Affluency (s.)*
『エゲレス語辞書和解』 *Affluence* 潤澤 又 寄集る事
Affluency を見出し語として採録せず。

Holtrop (1823) が同義語を *or* を付して併記している見出し語を『エゲレス語辞書和解』がどのように表現しているかを表 2.2 で 7 つの冊子毎に示す。

表 2.2 Holtrop (1823) が同義語を *or* を付して併記した見出し語の『エゲレス語辞書和解』の冊番号毎の対応状況

	A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3
Holtrop (1823) で併記された見出し語をそのまま採録	1	2	1	1	0	14	18
Holtrop (1823) で併記された見出し語を別見出し語に分割し双方を採録	1	30	25	13	15	9	11
Holtrop (1823) で併記された見出し語の一つだけを採録(他方を採録せず)	31	21	0	4	4	1	2

表 2.2 でも 冊子 A1 が併記された同義語の一つだけを取って採録語数を減らす工夫をしているのが分かる。しかも採録しなかった語には、*Abannition* や *Affluency* のように OED (2009) が *Obsolete* と見なしている例が少なくない。偶然とは思われず、真つ当な語学的な判断がなされたと思わざるを得ない。編纂者自身による判断か、あるいはオランダ商館に居た英語に通じたオランダ人の指導を得たのかもしれない。今後の検討課題である。

一方、B2 と B3 では他と比べて Holtrop (1823) の同義語の表現のままのものが多く、語学

³ Holtrop (1823) は見出し語の品詞の略号を0内にイタリック体で示している。本稿で引用する主な略号は以下の通り。

(s.) 実名詞、(s. pl.) 実名詞の複数、(adj.) 形容詞、(adv.) 副詞、(v. n.) 自動詞、(v. a.) 他動詞

的な判断がなされていないと見なせる。

- (3) Holtrop (1823) の見出し語には、その語を使った熟語と例文が挙げられていることが少なくないが、『エゲレス語辞書和解』ではごく一部を除いて熟語と例文は採録されていない。

一例を挙げると、Holtrop (1823) の見出し語 *Abroad, adv.* に下記の熟語と例文が出ている。

To go abroad; to take a person abroad with one; to walk abroad; to wait upon one's master abroad; there's a wind abroad; there's such a report abroad, or such a report goes abroad, it's abroad; 't is generally talked abroad; the manifestoes that are abroad; at home and abroad: to set abroad

この中で『エゲレス語辞書和解』に採録されているのは *to go abroad* だけである。

なお『エゲレス語辞書和解』に採録されていて Holtrop (1823) に見当たらない表現が2つある。見出し語 *Are* (*Be* の二人称現代形) の項の例文 “We are cold.” と、*Art* (*Be* の二人称現代形の古語) の項の例文 “thou art rich.” である。“We are” と “thou art” は Holtrop (1823) に例文として出ているので、編纂者が *cold* と *rich* を加えたようだ。

『エゲレス語辞書和解』に採録されている熟語と例文の冊毎の分布を表 2.3 に掲げる。冊子 A1 には比較的多いが、それ以外の冊子では少なく、B1 以降には全く採録されていない。全体として熟語がほとんど採録されておらず辞書として利便性に欠けている。

表 2.3 『エゲレス語辞書和解』に採録された熟語と例文の冊子毎の状況

	A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3
Holtrop (1823) から採録された熟語の数	18	2	3	4	0	0	0
Holtrop (1823) から採録された例文の数	5	2	1	1	0	0	0
Holtrop (1823) 以外から採録された例文の数	0	0	2	0	0	0	0

なお以上を総括すると、『エゲレス語辞書和解』に採録されている見出し語、熟語、例文の総数は管見で 3604 となる。B 項の途中までで、この数であるから大規模の辞書を作ることを目指していたと考えられる。

3. 『エゲレス語辞書和解』の邦訳語

未刊に終わった『エゲレス語辞書和解』の邦訳語を考察するにあたり、文久2年(西暦1862)に刊行された『英和对訳袖珍辞書』と対比して述べる。なお『エゲレス語辞書和解』の見出し語の総数は表 2.1 に示した「採録されている見出し語の数」の総和である 3,470 であり、『英和对訳袖珍辞書』の見出し語の総数はほぼ 35,000 である。

3.1 見出し語に対応するオランダ語訳の語数と邦訳語数

3.1.1 見出し語に対応するオランダ語訳の語数

『エゲレス語辞書和解』に採録されている範囲で、Holtrop (1823) が英語の 1 つの見出し語に与えているオランダ語訳の語数は最大で 13 語もある。最少は 0 語、つまり同義語を参照するだけでオランダ語訳を与えていないケースである。

図 3.1 に『エゲレス語辞書和解』の見出し語に与えられているオランダ語訳の語数の分布状況を示し、図 3.2 に『英和对訳袖珍辞書』の場合を示す。

図 3.1 『エゲレス語辞書和解』の見出し語に対するオランダ語訳の語数分布

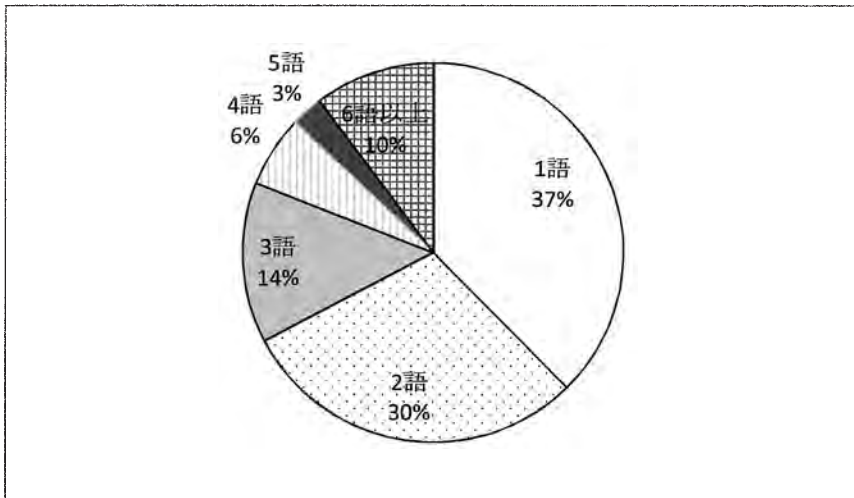
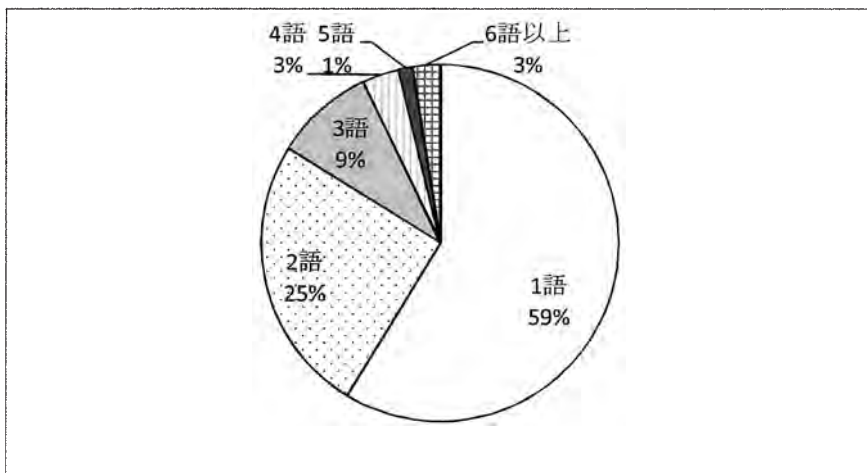


図 3.2 『英和对訳袖珍辞書』の見出し語に対するオランダ語訳の語数分布



『英和对訳袖珍辞書』の底本は Picard (1857) というポケットに入る小型の辞書(岩崎 (1935)) のためであろうが、英語の見出し語とオランダ語訳が 1:1 の関係になっているケースが 59%に

も達する。これに対して大型の辞書 Holtrop (1823) を底本としている『エゲレス語辞書和解』では 37% と少ない、オランダ訳語の数が多いのは大型辞書としてより広義な意味を記述しているためである。

3.1.2 見出し語に対応する邦訳語数

『エゲレス語辞書和解』が英語の見出し語に対して与えている邦訳の個数で最大で 6 語であり、最少は 0 語である。0 語なのは見出し語が同義語を参照するケースであり、邦訳語が与えられていない。

図 3.3 に『エゲレス語辞書和解』の見出し語（英語）に与えられている邦訳の個数の分布状況を示し、図 3.4 に『英和对訳袖珍辞書』の場合を示す。

『エゲレス語辞書和解』も『英和对訳袖珍辞書』も邦訳語が 1 つであるケースが一番多いのは同じである。邦訳語が 2 語以上のケースが『エゲレス語辞書和解』では 22% に対し、『英和对訳袖珍辞書』では 41% とほぼ倍増しており英和辞書として語意の理解が深まっていることを示している。

『英和对訳袖珍辞書』について図 3.2 と図 3.4 を比べると、オランダ語訳と邦語訳が似た分布を示している。

これに対して『エゲレス語辞書和解』の図 3.1 と図 3.3 はかなり異なった分布になっていて、図 3.1 で邦訳語が 1 のケースが 76%、つまり見出し語の 4 語の内に 3 語の邦訳が 1 つになっており簡略して邦訳したのが分かる。言い換えれば Holtrop (1823) のオランダ語訳が意味している語意を汲み取っているとは言い難い。

図 3.3 『エゲレス語辞書和解』の見出し語（英語）に対する邦訳の個数の分布

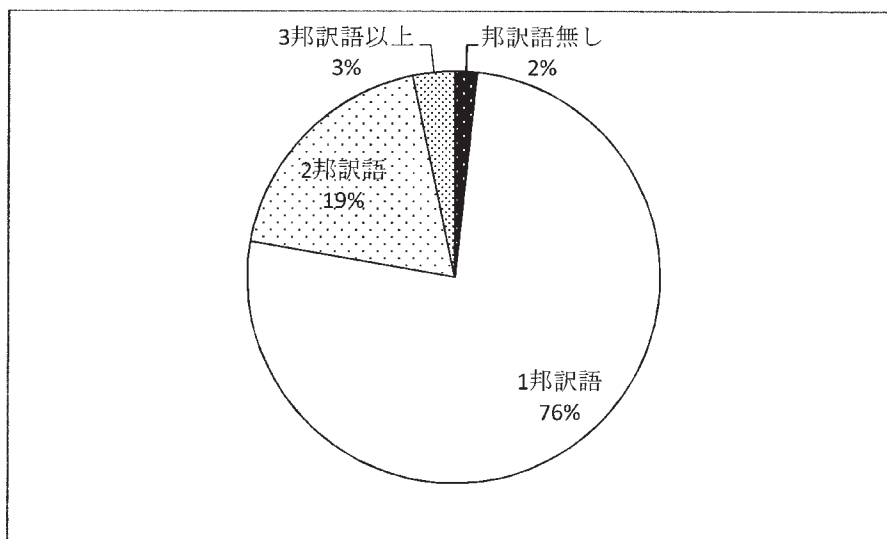
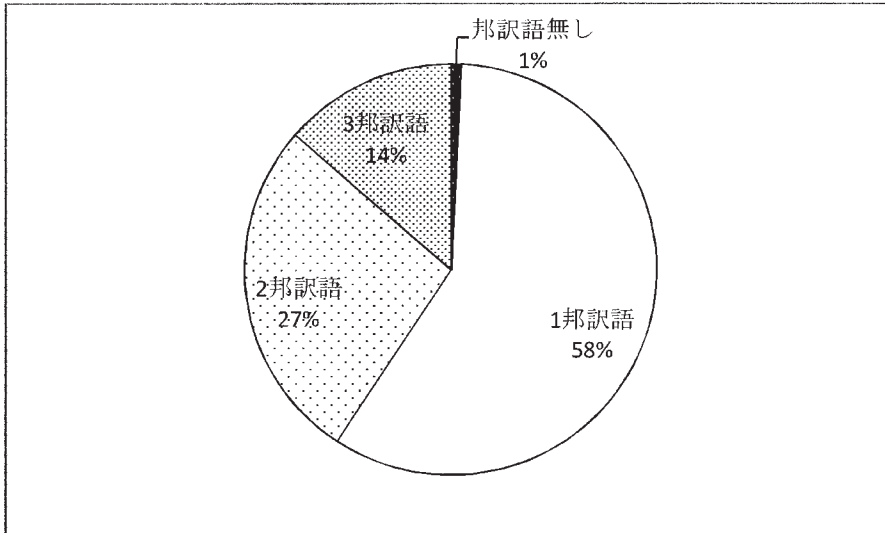


図 3.4 『英和对訳袖珍辞書』の見出し語（英語）に対する邦訳の個数の分布



3.2 カタカナ表記の外来語

『エゲレス語辞書和解』の邦訳語にカタカナで書かれた外来語がある。語源が特定しにくい固有名詞を除いて、普通名詞だけを取り上げると次のように分類できる。

- ・ ポルトガルからの外来語 カルタ、ギヤマン
- ・ オランダから外来語 ヨーデンレイム
- ・ オランダ語と英語が同音の語 エスセン、エスペン
- ・ 英語からの外来語 アンチモニ、ビーチ、ビスジェット、
ビッターミン、ビルツ、フィート、ブレーキ、
ブレット、プレムブル、ベルリ

英語とオランダ語との関係が分かるように、表 3.1 に Holtrop (1823) の与えているオランダ語訳を含めてこれらのカタカナ表記の外来語の一覧表を掲げる。なおアンチモニ、フィート、ブレットは複数の見出し語の邦訳に出てくるのだが、表 3.1 では煩雑さを避けるために 1 語に絞った。

『エゲレス語辞書和解』の底本 Holtrop (1823) が英蘭辞書であって見出し語の英語にオランダ語訳が与えられているので、邦訳のなかでカタカナで書かれた普通名詞の外来語で一番多いのはオランダ語だろうと予測したが実際には英語が圧倒的に多く、はっきりとオランダ語と特定できるのは 1 語しかない。このことから邦訳を得るのに必ずしもオランダ語訳に拠っていないことが分かる、そして一定の英語力を有していたことを示している。

これまでは『エゲレス語辞書和解』の編纂に当たったのがオランダ通詞の西吉兵衛等だったから Holtrop (1823) の与えているオランダ語訳を邦訳したとの暗黙の前提があったが、根底から考え直さなくてはならない。

表 3.1 『エゲレス語辞書和解』のカタカナ外来語の一覧

Holtrop (1823) 見出し語	Holtrop (1823) 蘭語訳	『エゲレス語辞書和解』 邦訳	カタカナ外来語	外来語分類
Basset (s.)	<i>Beest, basset (zeker kaartspel)</i>	カルタ遊の類	カルタ	ポルトガル語
Adamant (s.)	<i>Een diamant</i>	ギヤマン石 又 磁石	ギヤマン	ポルトガル語
Asphaltic (adj.)	<i>Joden-lijmig</i>	ヨーデンレイム 土名 の様に	ヨーデンレイム	オランダ語
Ashen (adj.)	<i>Esschen, van esschenhout</i>	エッセン 樹名 の	エッセン	英蘭同音
Aspen (adj.)	<i>Dat van eenen espenboom of espenhout is.</i>	エスペン 樹名 の	エスペン	英蘭同音
Antimoni (s.)	<i>spiesglas</i>	アンチモニ 薬名	アンチモニ	英語
Beechen (adj.)	<i>Beuken, van boekenhout</i>	ビーチ 樹名 の	ビーチ	英語
Bishprick (s.)	<i>Een bisdom</i>	ビスシエツ 法官 の支配所	ビスシエツ	英語
Bituminous (adj.)	<i>Jodenlijmig</i>	ビッテーミン 土名 の様たる	ビッテーミン	英語
Birchen (adj.)	<i>Dat van berk is</i>	ビルツ 樹名 の	ビルツ	英語
Bipedal (adj.)	<i>Twee-voet, dat twee voet lang, breed of ddisk is.</i>	二フィート 尺名 の	フィート	英語
Braky (adj.)	<i>Vol varen-kruid; --- doornig</i>	ブレイキ 草名 多き	ブレイキ	英語
Bread (s.)	<i>Brood</i>	ブレット 麦粉にて焼たる食物	ブレット	英語
Bramble (s.)	<i>Braam, braambotch</i>	草名 莓の類 又 プレムブル の類	プレムブル	英語
to Berry (v. n.)	<i>Bezien of bessen dragen, of vooribringen</i>	ベルリ 果名 の實る	ベルリ	英語

ところで『英和対訳袖珍辞書』にもカタカナで表記された外来語が多数出てくるが、英語からの外来語が一番多いのは『エゲレス語辞書和解』と同じである（三好 2009）。

3.3 邦訳が朱書きされているケース

『エゲレス語辞書和解』では邦訳語の多くは黒色で書かれているが、一部は朱色で書かれている。朱色で書かれた件数を冊子毎に表 3.2 に示す。総計で 221 件である。

表 3.2 朱書きされた邦訳の冊子毎の件数

A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3
0	17	36	11	61	57	40

朱で書かれた邦訳には、「不詳」として見出し語（英語）の意味が分からないとしたもの、「樹名」や「草名」として草木の名前が特定できていないもの、「文学家の語」や「星学家の語」などとして専門用語の特定が出来ていないものなどが目につく。邦訳が確定できていないので、後段の校正に委ねるための注記の意味だったかもしれない。

冊子 A1 には朱書きされた邦訳が無い。これは表 2.1 で示したように採録語数を絞ったことと無縁ではあるまい。

なお『英和対訳袖珍辞書』（堀 1862）に「未詳」としただけの邦訳は無いが、邦訳語の欄が

空白で邦訳が与えられていない見出しが5ケースある⁴。これら5ケースに底本 Picard (1857) はオランダ語訳を与えているので、通説のようにオランダ語から邦訳を得たのなら空欄になることはあるまい。

朱書きされた邦訳 221 件に対応する見出し語のうち、『英和对訳袖珍辞書』に 79 件が採録されている。『エゲレス語辞書和解』と『英和对訳袖珍辞書』の言語理解を対比的に知る目的のために紙面の関係で 10 語に絞り表 3.3 に示す。なお英語の見出し語は品詞が示されている『英和对訳袖珍辞書』に拠った。

表 3.3 『エゲレス辞書和解』で朱書きされた邦訳に対応する『英和对訳袖珍辞書』の邦訳

英語見出し	Holtrop (1823) 蘭語訳	『エゲレス語 辞書和解』	Picard (1857) 蘭語訳	『英和对訳袖珍辞書』
Archbishop, s.	<i>Aartsbisschop</i>	僧名	<i>aartsbisschop</i>	第一等ノビシヨツプ 法官
Beer, s.	<i>Bier</i>	酒名	<i>bier</i>	麦酒
Bandbox, s.	<i>Een spanendoos</i>	器名	<i>hoedendoos</i>	帽子ノ紐ヲ入ル紙匣
Baronet, s.	<i>Baronet (eertirel of waardigheid tusschen een baron en een ridder)</i>	爵名	<i>baronet</i>	英吉利ノ「ベルン」爵名ノ 下「ナイト」爵名ノ上ニ有 ル位
Bassoon, s.	<i>Basson, bahobooz (zeker speeltuig)</i>	翫物の名	<i>basson</i>	樂器ノ名
Benjamin, s.	<i>Benjuin (zekere wellriekende gom)</i>	脂の一種 不詳	<i>benzoin</i>	安息香
Bodice, s.	<i>Een korsjet</i>	不詳	<i>rijglif, lijf</i>	胸當 女ノ
Bacciferous, adj.	<i>Bezien-dragend</i>	不詳	<i>bessendragend</i>	實ヲ持チタル
Bailiwick, s.	<i>Baljuwschap, het regtsgebied van een baljuw of schout</i>	職名	<i>baljuwschap</i>	郷地支配ノ役
Balderdash, s.	<i>Eene ruwe rommalzoo, een hutspot of ondereenmening</i>	食物の名	<i>wartaal</i>	混雜シタル言葉

表 3.3 には Holtrop (1823) と Picard (1857) とで同じオランダ語訳がいくつかあるが、嘉永 3 年(西暦 1850)の『エゲレス語辞書和解』と文久 2 年(西暦 1862)の『英和对訳袖珍辞書』の 10 余年の間にオランダ語の理解が深まったという根拠は見つけがたい。むしろ開国によって急速に西洋文化の理解が深まったことを反映していると見るべきである。

たとえば Baronet を『エゲレス語辞書和解』は「爵名」で片づけている。これに対して『英和对訳袖珍辞書』では「英吉利ノ「ベルン」爵名ノ下「ナイト」爵名ノ上ニ有ル位」と邦訳を付

⁴ 『英和对訳袖珍辞書』で邦訳が与えられていない英語の見出しの 5 ケースを、底本である Picard (1857) が与えているオランダ語訳と共に揚げると次の通りである。

F.R.S. (<i>Abbrev. of Fellow of the Royal Society</i>)	<i>lid der Kon. Maatsch</i>
F.R.S.C. (<i>Abbrev. of Fellow of the Royal Society of Edinburgh</i>)	<i>Lid der Kon. Maatsch van Ed.</i>
Insensibly, <i>adv.</i>	<i>ongevoelig, allengs</i>
Litharge, s.	<i>half verglaasd metaalschuim, glijd, zilverglijd</i>
To be in the roads	<i>op de reede liggen</i>

けており、イギリスの爵位にランクがあり、ベルン baron の下でありナイト knight の上に Baronet があることを理解できていたことを表している。この邦訳中の小フォント「爵名」は注記である。

3.4 多義であるオランダ語に紛らわされた『エゲレス語辞書和解』にある誤訳

『エゲレス語辞書和解』に先立つ 40 年ばかり前に編纂された最初の英和辞書である『諸厄利亜語林大成』の責任者だった本木正栄がオランダ語を介しただけでは英語に対応する邦訳が得られぬことがあると指摘しており、それはオランダ語が英語と日本語から見て多義であるケースであることを筆者が明らかにした(三好 (2013))。しかるに『エゲレス語辞書和解』はこの問題を認識しておらず、そのために誤訳になっているケースが管見で下記のように 3 件ある。

(1) 見出し語 Ace の邦訳が「餌」になっている誤訳

英語 Ace に対する Holtrop (1823) のオランダ語訳は *Een aas* である。*Een* は不定冠詞である。オランダ語の名詞 *aas* は日本語で「餌」の意味と「トランプのエース」の両義がある。英語 Ace は「トランプのエース」であって「餌」の意味は無いので、多義であるオランダ語 *aas* に紛らわされた誤訳である。

(2) 見出し語 Boar の邦訳が「熊」になっている誤訳

英語 Boar に対する Holtrop (1823) のオランダ語訳は *Een beer (het mannetje van een varken)* である。オランダ語の名詞 *beer*⁵ は日本語で「熊」の意味と「オスのブタ」の両義がある。英語 Boar は「イノシシないし (去勢していない) オスのブタ」であって「熊」の意味は無いので、邦訳を「熊」にしたのは多義であるオランダ語 *beer* に紛らわされた誤訳である。

なお Holtrop (1823) のオランダ語訳は *beer* を (*het mannetje van een varken*) で補足説明しているが、これは「ブタのオス」を意味する。この補足説明を読み解けば誤訳にならなかったはずであるから編纂者のオランダ語力に問題が無いとは言い難い。

(3) 見出し語 to Accorporate の邦訳が「加る」になっている誤訳

英語 to Accorporate に対する Holtrop (1823) のオランダ語訳は *Anneenvoegen* である。オランダ語の動詞 *Anneenvoegen* は日本語で「加える」の意味と「統合する」の両義がある。英語 to Accorporate は「結合する」の意味であって「加える」の意味は無いので、邦訳を「加る」としたのは多義であるオランダ語 *Anneenvoegen* に紛らわされた誤訳である。

なお『英和对訳袖珍辞書』は、ここで挙げた 3 語については正しい邦訳を得ているので、オランダ語に拠らずに邦訳を得たと言える。

3.5 『エゲレス語辞書和解』と『英和对訳袖珍辞書』で意味の異なる邦訳

上述したように『エゲレス語辞書和解』に採録されている見出し語、熟語、例文の総数は 3604

⁵ 『エゲレス語辞書和解』は見出し語 Bear の邦訳を「麦酒」としているのが誤訳と片づけてしまいかねない。Holtrop (1823) は英語 Bear のオランダ語訳を *Een beer* としているが、このオランダ語訳 *beer* は「熊」と「オスのブタ」を意味する多義語であるが「麦酒」の意味は無い。ところで英語 Bear は古い時代に Bear と綴っていたと OED (2009) に出ている。それゆえ編纂者が古い英語の典拠に拠って邦訳「麦酒」を得たと考えられる。

であるが、その中で『英和对訳袖珍辞書』にも採録されている見出し語が管見で2,214ある。

曖昧さが入り込まないように、これらの中で両辞書が邦訳を1つだけ与えている見出し語を取り出して、両辞書での邦訳の意味を比べてみると表現は異なっても意味が同じであるのが大半である。しかし邦訳の意味が全く異なっているケースがある。それらは、(1) 両辞書で異なっている邦訳が相補的である、つまりどちらも正しくそれぞれの辞書が片面しか見ていないケース、(2) 『エゲレス語辞書和解』の邦訳が間違っているケースと、(3) 『英和对訳袖珍辞書』の邦訳が間違っているケースに分類できる。(3) については先の報告であきらかにした(三好(2011), 三好(2012)) ので、ここでは(1)と(2)について例を示す。

(1) 『エゲレス語辞書和解』と『英和对訳袖珍辞書』の邦訳が相補的なケース

例を挙げると英語 *Astrology* を『エゲレス辞書和解』は「星学」とし、『英和对訳袖珍辞書』は「星ヲ視テ占フ術」としているが *Astrology* には両義⁶があるのでどちらも正しい。つまり相補的な邦訳なので、両義をともに邦訳に取り込むのが望ましい。この意味では『英和对訳袖珍辞書』にも課題があることを承知しておく必要がある。

このような両義になっている邦訳の類例が多数あるが、紙面の関係で10例を表3.4に掲げる。なお英語の見出し語は品詞の分かる『英和对訳袖珍辞書』に拠っている。

表 3.4 『エゲレス語辞書和解』と『英和对訳袖珍辞書』とが相補的な邦訳の例

英語見出し語	『エゲレス語辞書和解』	『英和对訳袖珍辞書』
Abb, <i>s.</i>	糸の一種	毛ヲ剪ムㄱ
Astrology, <i>s.</i>	星学	星ヲ視テ占フ術
Await, <i>s.</i>	伏所 <small>兵卒の</small>	伏兵
Barmy, <i>adj.</i>	泡沫の如き	醜醜ノ
Bath, <i>s.</i>	桶	沐浴
Bawdiness, <i>s.</i>	汚穢	シマリナキ大言
Beholdingness, <i>s.</i>	叮嚀なる義	掛り合フㄱ
Besieger, <i>s.</i>	軍兵を以圍む人	取囲ム人
Bream, <i>s.</i>	鯛	湖魚ノ名
Abnegate-ed-ing, <i>v. a.</i>	遠くす	非スル
Ban-ned-ning, <i>v. a.</i>	忌悪の言を發す	宗旨ヲ離ナス

(2) 『エゲレス語辞書和解』の邦訳が誤訳と見なせるケース

例を挙げると英語 *Antithesis* を『エゲレス語辞書和解』は「脾病の薬」と訳しているが、『英和对訳袖珍辞書』の邦訳「反対」が正しい。Holtrop (1823) と Picard (1857) が与えているオランダ語訳はともに *Tegenstelling* であるが、これとて「反対」の意味なのでどのような理由で「脾病の薬」と訳したのかは全く不明である。語学力が不足していたとしか言いようがない。類例が数十件見つかるが、紙面の関係でその10例を表

⁶ OED (2009) によると、*Astrology* は現在では占星術を意味するが、古い時代には天文学の意味でも使われていたとして1807年での用例が示されている。Holtrop (1823) のオランダ語訳は *Sterreninvloed-kunde* と *sterrenkijkerij* である、つまり占星術と天文学を併記している。

3.5に示す。なお英語の見出し語は品詞の分かる『英和对訳袖珍辞書』に拠っている。

表 3.5 のなかで Barn については補足説明が必要である。実は『エゲレス辞書和解』の誤訳は Holtrop (1823) の与えているオランダ語訳 *schaar* が誤植であることに原因がある。注意すれば Holtrop (1823) の Barn の項に出ている下記の例文との関係でこの誤植に気がつくはずだが、英語の初学者にそれを求めるのは酷かもしれない。しかしオランダ語のベテランなら気が付くべきである。その例文は次の通りである。

the barn is full, *de schuur is vol*.

この例文のオランダ語訳 *schuur* が英語 barn に対応する正しい綴りであり、見出し語 Barn に対するオランダ語訳 *schaar* は誤植である。オランダ語訳 *schaar* の邦訳として「鋏」は正しいが、英語 Barn の邦訳としては正しくない。

表 3.5 『エゲレス語辞書和解』の邦訳が正しくない例

英語見出し語	Holtrop (1823) 蘭語訳	『エゲレス語辞書和解』	『英和对訳袖珍辞書』
Aborigines, <i>s. pl.</i>	<i>De eerste bewoner van een land</i>	一国の開祖	最初ノ住民
Agnail, <i>s.</i>	<i>Een nijngel</i>	鋏の轂	指頭ニ生スル腫瘍
Bagpipe, <i>s.</i>	<i>Doedelzak</i>	囊の類	樂器ノ名 笛ノ類
Barn, <i>s.</i>	<i>Een schaar</i>	鋏	小舎
Bespeckle-ed-ing, <i>v. a.</i>	<i>Bespikkelen</i>	振掛る	星小紋ヲ付ル
Bestick-stuck-sticking, <i>irr v. a.</i>	<i>Besteken</i>	飾る	衝キ込ム
Bibber, <i>s.</i>	<i>Een zuiper</i>	吸う人	大酒ノミ
Bile, <i>s.</i>	<i>De gal</i>	膽	胆汁
Bonclace, <i>s.</i>	<i>Kart</i>	器	糸細工ノ物
Breviary, <i>s.</i>	<i>Een getijboek</i>	汐の干満を記たる書 不詳	手扣 日々勤方ヲ記シタル書「ローマ」ノ

3.6 『エゲレス語辞書和解』の言語学関係見出し語の邦訳

『エゲレス語辞書和解』編纂者の言語の理解度を知るために、言語に関係する見出し語の邦訳を『英和对訳袖珍辞書』と対比して表 3.6 に掲げる。

表 3.6 に示した中から 1 例として Antepenult, *s.* を取り上げると、『エゲレス語辞書和解』は邦訳を「文学の語」に留めているだけである。この見出し語に対応する Holtrop (1823) のオランダ語訳 *De laatste lettergreep op twee na* は「語末から二番目の音節」のことであり古い時代の文法論に沿っているのだが、このことを『エゲレス語辞書和解』の編纂者は汲み取れていない。それに対して『英和对訳袖珍辞書』は底本 Picard (1857) のオランダ語訳 *derde lettergreep van achteren* に沿うように「終りヨリ第三ノ語綴（シクサリ）」と訳しており、新しい時代の言語学の考え方に拠って内容を理解して訳を付けていることが分かる。

表 3.6 に掲げた他の見出し語についても『エゲレス語辞書和解』の邦訳は言語学上の意味を理解していたとは思われない邦訳ばかりである。

それに対して表 3.6 に示した『英和对訳袖珍辞書』の邦訳は言語学上の意味を理解していたと評価できる。また Picard (1857) の与えているオランダ語訳を単に日本語に置き換えて済ませているわけでないことが読み取れる。『エゲレス語辞書和解』から『英和对訳袖珍辞書』に至

る十余年の間で、西洋の言語学の理解が大いに深まったことを物語っている。

表 3.6 『エゲレス語辞書和解』と『英和对訳袖珍辞書』に見る言語学関係用語の邦訳状況

英語の見出し語	Holtrop (1823) 蘭語訳	『エゲレス語辞書和解』	Picard (1857) 蘭語訳	『英和对訳袖珍辞書』
Ablative, s. et adj.	(in grammar) ode naamval	文法に携る格調の名	ablativus, wegnemend	奪格 文法家ノ詞、取除ク
Accidence, s.	Eene latijnsche spraakkunde, een boekje dat de eerste gronden van het latijn behelst	ラティン語文法書	beginsel, boekje, dat de beginselen eener taal bevat, n.	原始、國語ノ原始ヲ教ユル書
Affix, s.	Aangevoegde letter of letergreep	結合する事又文字の一綴り	bijgevoegd woorddeeltje, n.	語ニ附加ケヘル物 文法ノ語ナリ
Antepenult, s.	De laatste lettergreep op twee na	文学家の語	derde lettergreep van achteren	終リヨリ第三ノ語綴(シクサリ)
Appellative, s.	Een naam die aan velen gemeen is, of toegepast wordt	通號	gemeen naamwoord, woord	通名 文法家ノ語
Apposition, s.	Aan voeging, aanlegging; --- het stellen van 2 naamwoorden I n een geval	接合する義	bijvoeging	添加ルフ、同格ノ名詞ニツ並フ
Article, s.	Ledeken, lidwoordje; --- lid; --- deel of stuk	冠詞 文学の言	lidwoord, artikel, punt, voorwaarde	冠詞 文法家ノ語、ケ條、時刻、情態、約束

4. まとめ

『エゲレス語辞書和解』の英語の見出し語は Holtrop (1823) から持ってきているが、見出し語の件数を冊子 A 之第一が過半数以下に絞り込んでいるのに対し、他の冊子はほぼすべての見出し語を取り込んでおり見出し語の採録方法に辞書全体として統一性が見られない。

また Holtrop (1823) に採録されている熟語と例文のほとんどすべてが採録されておらず、単語帳のようであって辞書としての利便性に欠けている。

見出し語に対して与えられている邦訳語の件数が1つだけであるケースが全体の76%であり、2つのケースが19%であって、合せると95%にもなる。この点でも単語帳の域を出てはいない。

またオランダ語訳が英語と日本語から見て多義であるケースで英語の意味に合わない邦訳にしまった誤訳があり、先行する『諸厄利亜語林大成』の得ていた知見が活かされていない。

ただしカタカナで表記された外来語に英語が多く一定の英語力を身に付けていたのが読み取れる。

『エゲレス語辞書和解』の編纂は嘉永年間に始まった。そして安政年間に黒船がやってきて開国し日本の洋学がオランダ語依存から離れて英語やフランス語などへと切り替わるわけだが、その助走を『エゲレス語辞書和解』が語っている。上述した辞書としての完成度への疑問は苦難だった助走への敢えての苦言である。この苦難の先に現在がある。

参考文献

- 荒木伊兵衛 (1931) 『日本英語学書誌』 東京：創元社
- Holtrop 1823: *JOHN HOLTROP'S ENGLISH AND DUTCH DICTIONARY*, Revised, enlarged and corrected by A. STEVENSON, THE FIRST VOLUME, Te DORDRECHT bij BLUSSE EN VAN BRAAM, en te AMSTREERDAM bij J. VAN ESVELDT HOLTROP.
- 堀達之助編 (1862) 『英和对訳袖珍辞書』 江戸：洋書調所、文久2年
- 石原千里(1984) 「『エゲレス語辞書和解』とその編者たち」『英学史研究』 17:109-124
- 岩崎克己 (1935) 『柴田昌吉伝』 東京：岩崎克己
- 古賀十二郎 (1947) 『徳川時代に於ける長崎の英語研究』 福岡：九州書房
- 三好彰 (2009) 「『英和对訳袖珍辞書』における英語翻訳の考察」『英学史研究』 42: 105-118.
- 三好彰 (2012) 「『英和对訳袖珍辞書』の構成法の考察」『東京大学言語学論集』 32: 67-84.
- 三好彰 (2013) 「『諳厄利亜語林大成』と『英和对訳袖珍辞書』に見る黎明半世紀の英学の進展」『東京大学言語学論集』 34: 297-310.
- 本木正栄 (1982a) 『諳厄利亜語林大成 草稿』(長崎市立博物館所蔵本の複製) 東京：大修館書店
- 西吉兵衛等 (1851-1854) 『エゲレス語辞書和解』 嘉永4年から安政元年
- OED (2009) *Oxford English Dictionary, Second edition on CD-ROM Version 4.0*, New York; Oxford University Press
- Picard, H. (1857) *A new pocket dictionary of the English and Dutch Languages*, 2d ed., rev. and augm. by A.B. Maatjes, Joh. Noman: Amsterdam
- 重久篤太郎 (1941) 『日本近世英学史』 京都：教育図書
- 竹村覚 (1933) 『日本英学発達史』 東京：研究社
- 豊田實 (1939) 『日本英学史の研究』 東京：岩波書店

Considerations on the Uncompleted English-Japanese Dictionary Compiled in Early 1850 years

Akira Miyoshi

Keywords: The English-Japanese dictionary in the Edo Period, Dutch interpreters in Japan

Abstract

The English-Japanese Dictionary titled “Egeresugo Jisho Wage” was started to be compiled in 1850, but it was not completed. Hitherto it has been believed that the compilers, who were excellent English scholars in Japan, were too busy in dealing with foreign issues to complete the dictionary.

The present author thinks that there are inconsistent entry words and many poorly translated Japanese words in the Dictionary, especially due to lack of linguistic knowledge. Therefore it is to be considered that the compilers in those days had no sufficient English proficiency to complete the English-Japanese Dictionary.

(みよし あきら)